

題名：2025年度スポーツの集い ～ 共創的な活動をめざして ～

PTA名：大垣市立北中学校PTA



PTAの役員で2025年度の活動について話していると、「もっと子どもたちに喜んでもらえる活動がしたい」という意見が。

「そういう活動ができれば、PTAに加入しても良いと思ってもらえるかも」「具体的には何しよう？」「学校行事に何かできないかな？」「スポーツの集いにさしいれは？」「飲み物は喜ばれるかも」そんな話は盛り上がります。

「団カラーのTシャツに、メッセージやスローガンを書いて  
オリジナルTシャツにするとか？」  
「それ盛り上がりそう！」「それ提案してみましょう！」

まずは校長先生と教頭先生に提案。

「面白そうですね」「こういう話は  
子どもにも教員にも喜んでもらえると  
思いますよ」

「でもTシャツだと、ひとりひとりのサイズ  
確認必要ですよね…」

「素材によっては透けてしまうことが気になるかもしれないですね…」

なるほど… …

「では、ビブス にしましょう！」





この支出増は少し厳しいけれど、PTA活動のPRもかねて、なんとか今年度予算に盛り込んで総会に提案。無事承認。

少しフライング気味だけれど役員の子どもたちにも聞いてみる。

まだ、どこまでできるかわからないよ…

今、こんなことをやろうとしてるんだよね、どう思う？

「何それ！すごい楽しそう！」「青春ってかんじするわ〜」

すでに卒業してしまった上の子は…

「なんでそれ、去年やってくれなかったん？」

それはごめん！でも、これは**好感触**！

「教頭先生、準備のためにいつごろまでにビブスがあるといいですか？」

「6月末ですかね。教員の中にもどんなサイズ感なのか、  
こんな風にできると良いという意見もありまして…」

「サンプルは作ってきたので、先生方にも確認してもらってください」

「見てもらいました。いけそうですね」

「では早速、購入の手配をすすめますね！」

ところが…、ひとりの役員のところに、

「現場の教員としては**不安**に思うこともありまして」

ある**先生**からのそんな話が聞こえてくることに。

「それはちょっと聞き捨てならないですね」

では一度時間をつくっても良いですか？





ふむふむ、なるほど、なるほど…

「先生のお話はよくわかりました…」

「じゃあ、これ やめましょう」

そもそもPTAとしてやりたかったことは、

「子どもたちの思い出にアクセント  
をそえること」

「行事に向かう子ども達と先生方に  
一緒にワクワクしてもらうこと」

なんです。Tシャツづくりではないのです。

「どんなことがあれば、先生方と子どもたちが一緒にワクワクできるか、  
ご意見いただけますか？」

「生徒たちにも聞いてみた方がいいですかね？」

「先生がよろしければ、ぜひ！」

先生は生徒会の役員たちを集めて相談。

「ビブスは動きにくいし、暑いかもね」

「やっぱり飲み物はほしいね」

「団カラーのリストバンドやタオルも  
盛上がりそうだけど、目立たないかあ」

「やっぱり…、Tシャツか！」

「何も書かない方が、他の行事にも  
使えそうだよね」

「事前にわかっていたら透け対策は  
大丈夫だよね」

「でも…、私たちの代でこんな話を  
だしてくれるのは嬉しいね」



「生徒なりに、いろいろ考えて話し合ってくれたんですよ」

「一回きりではもったいないから、何も書かないTシャツが良いようです」

「サイズ確認？大丈夫です。3日もあればやれますね」

そんな報告を聞けると嬉しくなってしまいます

ここから先、2025年度のスポーツの集いがどうなっていくのかは、もう少しだけ未来のお話、今からとても楽しみです。このあと、まさにTシャツの発注をしなければなりません。予算に少し余裕もできそうなので飲み物の提供も実現できるかな。これが、子どもたちと家庭でPTA活動について話せる機会となってくれることにも期待しています。

当初、この企画を考えていたときには、

「企画立案を先生に任せるのは申し訳ない」との思いもあり、PTA役員で話し合っていました。しかし、それでは職員室の中に「PTAからの提案は断りづらい」そんな空気を作っていたのかもしれない。

また、先生方の感じる不安を聞いたとき、「見えている景色」の違いを感じました。当然のことなのですが、あらためて実感したのです。

今回は結果的に、保護者が発案し、先生が深める機会をつくり、生徒が自分たちの希望を出して形にすることになりました。これは、立場や役割の違う人たちが、その場に新しい価値を創り出す「共創」のひとつの形だったようにも思います。

ともすれば、PTAの活動は「やらされ感」を感じてしまうもの。願わくは、今後の活動が共創的な関係のうえに進めていけるように。また多くの人たちと一緒に考えながら活動していきたいと思っています。



イラスト：いらすとや

<https://www.irasutoya.com/>